

## 「本の町プロジェクト」のこれまでの主な活動

年	月	
2005	8～9	北尾、全日空の機内誌「翼の王国」の取材で「元祖・本の町」ヘイ・オン・ワイ(イギリス)に行く。斉木も同行。「翼の王国」2005年12月号(438号)掲載。
2005	9	ヘイの帰途2番目に誕生した本の町ルデュ(ベルギー)に立ち寄る。ポット出版刊2006年単行本「新世紀書店」に掲載。
2005	10	北尾と斉木、2つの町に感銘を受け日本にも「本の町」をつくる活動を行うことを決意。(ルデュの宿で既にそういう雰囲気でしたが…)
2005	10～	知り合いの古書店などに声をかけ賛同者を募りはじめる。平行して首都圏を中心に「本の町」適地を探し、視察と称して遊び回る。
2007	7	高遠町長藤地区に古書店+喫茶の店「高遠 本の家」開店。常駐スタッフ1名+東京からのサポートスタッフで運営。
2008	4	高遠バスターミナル前に店舗を移転。同時に店舗名称を「本の家」と改称。斉木が同地へ移住。
2008	10	「本の町」を体感してもらうことを目的とした全く新しい形のイベント「高遠ブックフェスティバル」の開催を決定。スタッフ募集を開始。(最終的にはすべてボランティアの100名以上のスタッフで運営)
2009	8	第1回高遠ブックフェスティバル開催。会期2日間の来場者は高遠町中心部の人口を上回る2,000人以上となり、イベントとしては成功を収める。
2009	11	伊那市営「高遠さくらの湯」の協力により本と温泉のイベント「ゆかたdeナイト」開催(会場:高遠さくらの湯)
2009	12	伊那市役所「いなし出会いサポートセンター」の協力により婚活イベント「サクライロノクリスマス」開催(会場:高遠さくらホテル)
2010	2	「高遠ブックフェスティバル」が信州大学イノベーション研究・支援センターの「第5回 信州イノベーション大賞(文化観光交流賞)」を受賞。
2010	5	フランス語が全く分からないにも関わらず、フランスの本の町シャリテとモンモリオンを訪問(斉木)。電子書籍化された「季刊レポ」創刊号に記事あり。
2010	6	伊那市商工会主催「バラ祭り」との共催により詩朗読イベント「バラの集い」開催(会場:しんわの丘ローズ・ガーデン)
2010	9	高遠祭りとの共催で第2回高遠ブックフェスティバル開催。会期6日間。
2010	11～	町づくりに向けての意見交換の場として毎月(2011年の高遠ネットワーク創立まで)定例会を開催。会場:高遠町図書館。年齢、職業、居住地を問わず誰でも参加可能とした。
2010	12	東京大学文化資源学研究室が主催する「第10回 文化資源学フォーラム[書棚再考]」にて講演とパネルディスカッションに参加(斉木)
2011	1	高遠ブックフェスティバルが長野県の「地域発 元気づくり大賞」を受賞。長野県庁において阿部長野県知事から表彰を受ける。
2011	3	東日本大震災を受け関係者で協議の結果「週末・本の町」企画を9月・10月の二ヶ月間に短縮して開催することに決定。(当初予定は4～10月の毎週末)
2011	7	「高遠ネットワーク会議」創立。主催:伊那市高遠町総合支所。関係団体が参加し、町づくりのための意見交換を目的とする連絡会議として発足。
2011	7	高遠町ゆかりの書家、中村不折の作品を取材し地図にまとめる企画を高遠高校と共催(10月まで)。
2011	9～10	「週末本の町」企画開催。
2011	11	「週末本の町」企画の実績を踏まえて今後の活動について検討し、本の町プロジェクトとしての高遠町での活動を年内を持って一区切りとすることを決める。
2011	12	高遠町での拠点であった「本の家」閉店。
2014	11	兵庫県明石市役所で開催された『「本の町明石」を考えるシンポジウム』に参加。海外の本の町と高遠での活動事例について講演(斉木)。